

図表 3-11 三次配賦後 診療科部門別収支計算結果 (外来)

(外来)

	外来部門																												合計
	内科	精神科	神経内科	呼吸器科	消化器科	循環器科	小児科	外科	整形外科	形成・美容外科	脳神経外科	呼吸器外科*	心臓血管外科	小児外科**	皮膚科	泌尿器科	こら門科**	産婦人科	産科**	婦人科*	眼科	耳鼻いんこう・気管食道科	放射線科	麻酔科	アレルギー科**	リウマチ科**	リハビリテーション科	外来計	
医業収益	9.2 (9.2)	0.4 (0.4)	0.4 (0.4)	0.5 (0.5)	1.4 (1.4)	1.4 (1.4)	1.5 (1.5)	2.9 (2.9)	2.1 (2.1)	0.2 (0.2)	0.9 (0.9)	0.0 (0.0)	0.1 (0.1)	0.0 (0.0)	0.5 (0.5)	3.6 (3.6)	0.1 (0.1)	0.7 (0.7)	0.0 (0.0)	0.2 (0.2)	1.3 (1.3)	0.6 (0.6)	0.5 (0.5)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.1 (0.1)	0.1 (0.1)	28.6 (28.6)	100.0 (100.0)
医業費用	8.5 (8.9)	0.4 (0.4)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	1.4 (1.5)	1.5 (1.5)	1.8 (1.9)	3.1 (3.3)	3.2 (3.3)	0.3 (0.4)	1.3 (1.3)	0.0 (0.0)	0.2 (0.2)	0.0 (0.0)	1.1 (1.1)	3.2 (3.3)	0.1 (0.1)	1.2 (1.2)	0.0 (0.0)	0.2 (0.2)	1.4 (1.5)	0.9 (0.9)	0.6 (0.7)	0.1 (0.1)	0.0 (0.0)	0.1 (0.1)	0.3 (0.4)	31.9 (33.4)	95.3 (100.0)
材料費	2.2 (9.0)	0.1 (0.3)	0.2 (0.6)	0.1 (0.5)	0.3 (1.4)	0.5 (1.9)	0.4 (1.6)	1.1 (4.5)	0.6 (2.4)	0.0 (0.2)	0.3 (1.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.2 (0.6)	1.2 (4.9)	0.0 (0.1)	0.1 (0.4)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.3 (1.2)	0.1 (0.4)	0.1 (0.4)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	8.0 (32.2)	24.7 (100.0)
給与費	4.0 (8.4)	0.2 (0.4)	0.2 (0.5)	0.2 (0.4)	0.6 (1.3)	0.6 (1.2)	0.8 (1.7)	1.3 (2.7)	1.6 (3.3)	0.2 (0.4)	0.6 (1.3)	0.0 (0.0)	0.1 (0.2)	0.0 (0.0)	0.6 (1.2)	1.3 (2.7)	0.0 (0.1)	0.7 (1.4)	0.0 (0.0)	0.1 (0.2)	0.6 (2.5)	0.4 (1.8)	0.3 (0.8)	0.1 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.2 (0.7)	14.9 (51.8)	47.6 (100.0)
委託費	0.9 (14.0)	0.1 (0.8)	0.0 (0.7)	0.1 (0.8)	0.2 (2.8)	0.2 (2.4)	0.2 (2.9)	0.3 (4.1)	0.4 (5.6)	0.0 (0.6)	0.1 (1.8)	0.0 (0.1)	0.0 (0.3)	0.0 (0.0)	0.1 (2.1)	0.2 (3.6)	0.0 (0.2)	0.2 (2.5)	0.0 (0.1)	0.0 (0.4)	0.2 (2.5)	0.1 (1.8)	0.1 (0.8)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.7)	3.5 (51.8)	8.8 (100.0)
設備関係費	0.8 (8.1)	0.1 (0.6)	0.1 (0.5)	0.1 (0.5)	0.2 (1.5)	0.2 (1.6)	0.2 (2.3)	0.3 (2.8)	0.4 (3.9)	0.0 (0.4)	0.1 (1.4)	0.0 (0.1)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.1 (1.4)	0.3 (2.8)	0.0 (0.1)	0.2 (1.5)	0.0 (0.0)	0.0 (0.3)	0.2 (2.0)	0.1 (1.3)	0.1 (0.8)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.1 (0.5)	3.6 (34.7)	10.4 (100.0)
研究研修費	0.0 (8.4)	0.0 (0.4)	0.0 (0.5)	0.0 (0.4)	0.0 (1.6)	0.0 (1.5)	0.0 (1.6)	0.0 (2.7)	0.0 (3.8)	0.0 (0.4)	0.0 (2.1)	0.0 (0.1)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.0 (1.1)	0.0 (2.3)	0.0 (0.1)	0.0 (1.4)	0.0 (0.0)	0.0 (0.2)	0.0 (1.9)	0.0 (1.2)	0.0 (0.9)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.4)	0.1 (33.5)	0.4 (100.0)
経費	0.4 (8.0)	0.0 (0.4)	0.0 (0.4)	0.0 (0.4)	0.1 (1.4)	0.1 (1.3)	0.1 (1.7)	0.1 (2.8)	0.2 (4.0)	0.0 (0.4)	0.1 (1.6)	0.0 (0.1)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.0 (1.0)	0.1 (2.3)	0.0 (0.2)	0.1 (1.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.2)	0.1 (1.7)	0.1 (1.1)	0.0 (0.8)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.4)	1.5 (32.0)	4.7 (100.0)
控除対象外消費税等負担額	0.0 (8.1)	0.0 (0.2)	0.0 (0.2)	0.0 (0.6)	0.0 (2.4)	0.0 (1.0)	0.0 (3.3)	0.0 (4.1)	0.0 (2.8)	0.0 (0.2)	0.0 (0.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.5)	0.0 (8.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.6)	0.0 (0.1)	0.0 (0.8)	0.0 (0.6)	0.0 (0.9)	0.0 (0.1)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.4)	0.0 (0.3)	0.1 (35.8)	0.4 (100.0)
本部配賦費	0.0 (6.1)	0.0 (0.5)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.0 (0.6)	0.0 (1.4)	0.0 (0.9)	0.0 (1.7)	0.0 (2.7)	0.0 (0.1)	0.0 (0.5)	0.0 (0.0)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.0 (0.5)	0.0 (1.7)	0.0 (0.1)	0.0 (0.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.2)	0.0 (1.4)	0.0 (0.8)	0.0 (0.2)	0.0 (0.2)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (2.1)	0.1 (22.7)	0.3 (100.0)
収支差額	0.7 (14.9)	-0.1 (-1.1)	-0.1 (-1.3)	0.0 (1.1)	0.0 (0.2)	-0.1 (-1.7)	-0.3 (-6.5)	-0.3 (-5.9)	-1.1 (-23.0)	-0.2 (-3.3)	-0.3 (-6.8)	-0.0 (-0.3)	-0.1 (-1.1)	-0.0 (-0.4)	-0.6 (-12.9)	0.4 (9.0)	-0.0 (-0.7)	-0.5 (-9.8)	-0.0 (-0.5)	-0.1 (-1.2)	-0.2 (-3.4)	-0.3 (-5.6)	-0.1 (-2.8)	-0.1 (-1.2)	-0.0 (-0.2)	-0.0 (-0.3)	-0.2 (-4.8)	-3.3 (-69.9)	4.7 (100.0)
医業外収益	0.1 (5.5)	0.0 (0.3)	0.0 (0.2)	0.0 (0.1)	0.0 (1.3)	0.0 (1.0)	0.0 (1.0)	0.0 (1.0)	0.0 (2.0)	0.0 (0.2)	0.0 (0.4)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.4)	0.0 (1.5)	0.0 (0.1)	0.0 (0.6)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.8)	0.0 (0.5)	0.0 (0.7)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.3)	0.3 (18.2)	1.8 (100.0)
医業外費用	0.1 (3.7)	0.0 (0.2)	0.0 (0.2)	0.0 (0.1)	0.0 (0.5)	0.0 (0.6)	0.0 (1.0)	0.0 (1.5)	0.0 (1.4)	0.0 (0.1)	0.0 (0.6)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.4)	0.0 (1.7)	0.0 (0.1)	0.0 (0.6)	0.0 (0.0)	0.0 (0.1)	0.0 (1.0)	0.0 (0.5)	0.0 (0.7)	0.0 (0.1)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.3)	0.2 (15.6)	1.5 (100.0)
総収支差額	0.7 (14.7)	-0.1 (-1.0)	-0.1 (-1.2)	0.0 (1.0)	0.0 (0.5)	-0.1 (-1.4)	-0.3 (-5.9)	-0.3 (-5.5)	-1.1 (-21.0)	-0.2 (-3.0)	-0.3 (-6.4)	-0.0 (-0.2)	-0.1 (-1.0)	-0.0 (-0.4)	-0.6 (-11.9)	0.4 (8.4)	-0.0 (-0.7)	-0.5 (-9.0)	-0.0 (-0.4)	-0.1 (-1.1)	-0.2 (-3.2)	-0.3 (-5.2)	-0.1 (-2.6)	-0.1 (-1.1)	-0.0 (-0.2)	-0.0 (-0.3)	-0.2 (-4.4)	-3.2 (-62.6)	5.0 (100.0)

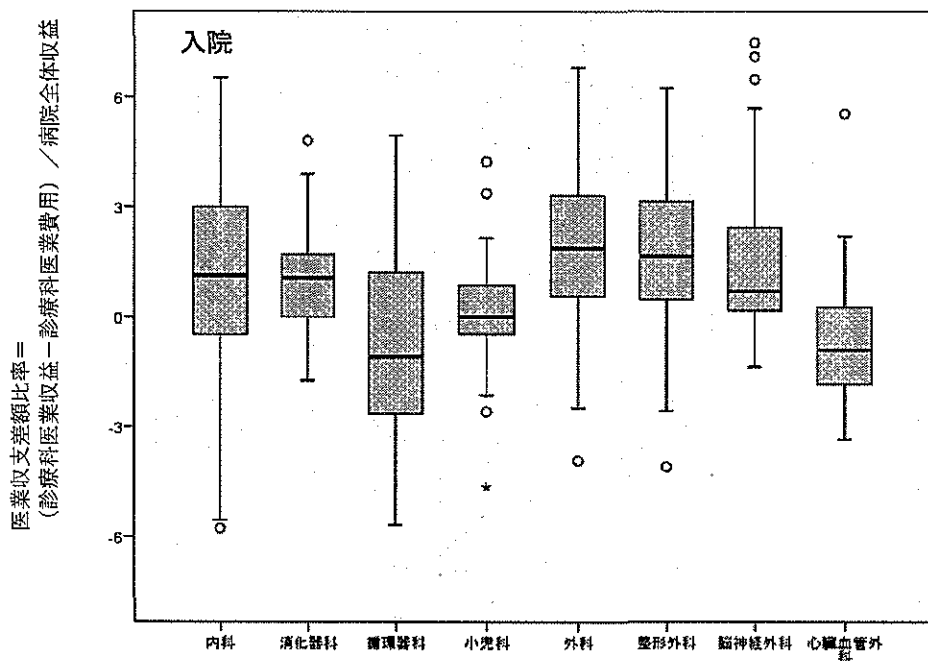
※全病院合計で診療科数が10以下の場合は「*」、5以下の場合は「**」を付した。

総収支差額は、入院部門合計で+8.2、外来部門合計で-3.2となっている。

(2) 診療科別医業収支差額比率の分布 (箱ひげ図)

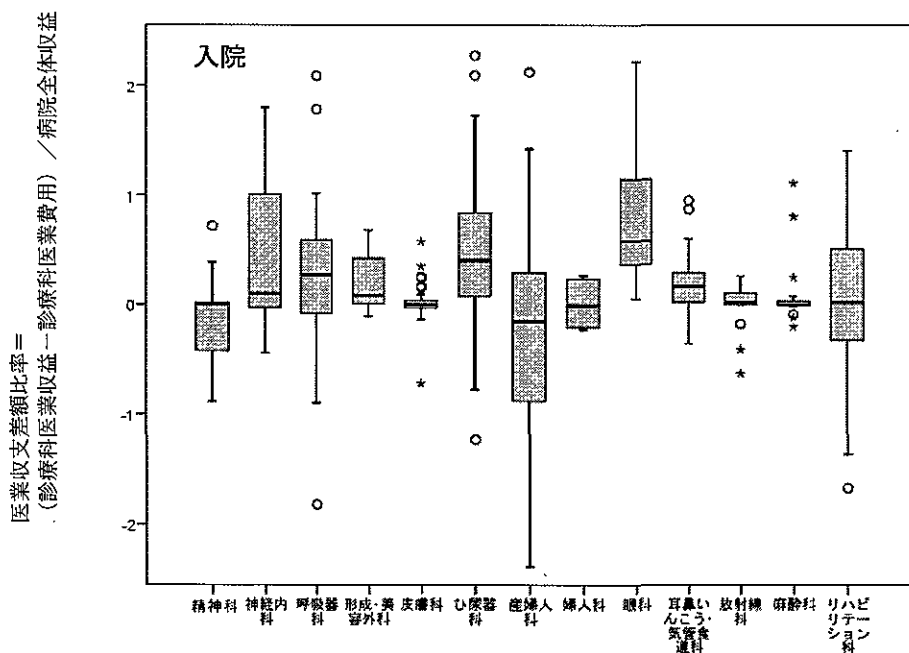
- 主要な診療科の収支差額比率の分布を示すと、以下のとおりとなる。なお、病院数が10未満の診療科については除外した。
- 図表3-12は入院部門における収支差額比率の分布を示しており、上表でばらつきの大きい診療科、下表でばらつきの小さい診療科をまとめて表示した。

図表 3-12 診療科別 入院・外来別収支差額比率分布 (三次配賦後・入院)



診療科名	n
内科	64
消化器科	26
循環器科	34
小児科	41
外科	57
整形外科	64
脳神経外科	48
心臓血管外科	22

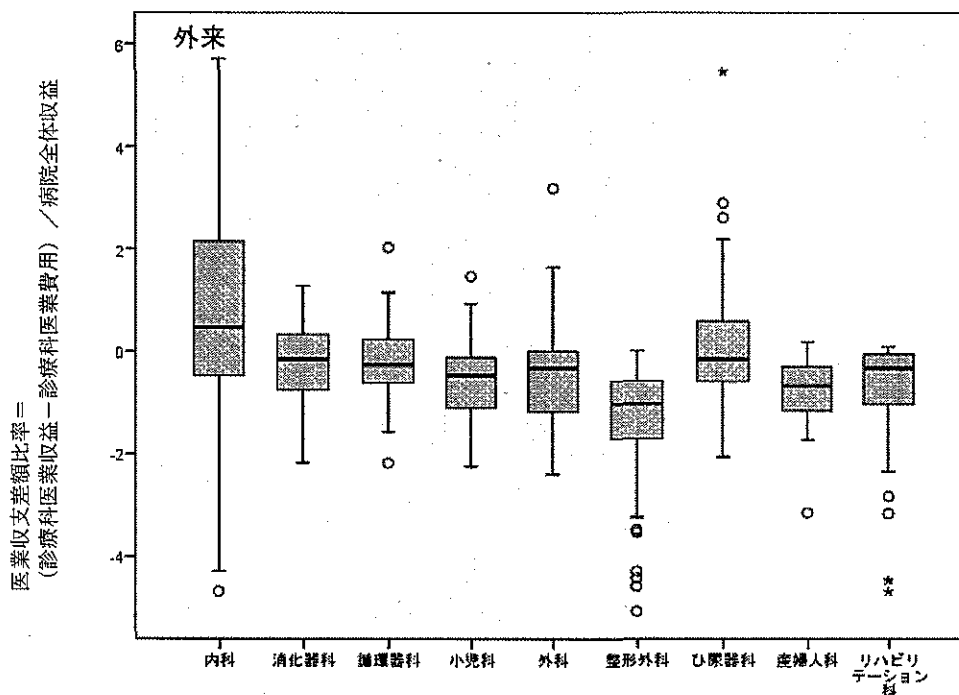
※箱ひげ図の表示範囲を限定している



診療科名	n
精神科	13
神経内科	24
呼吸器科	15
形成・美容外科	21
皮膚科	39
泌尿器科	48
産婦人科	29
婦人科	10
眼科	47
耳鼻いんこう・気管食道科	38
放射線科	18
麻酔科	19
リハビリテーション科	11

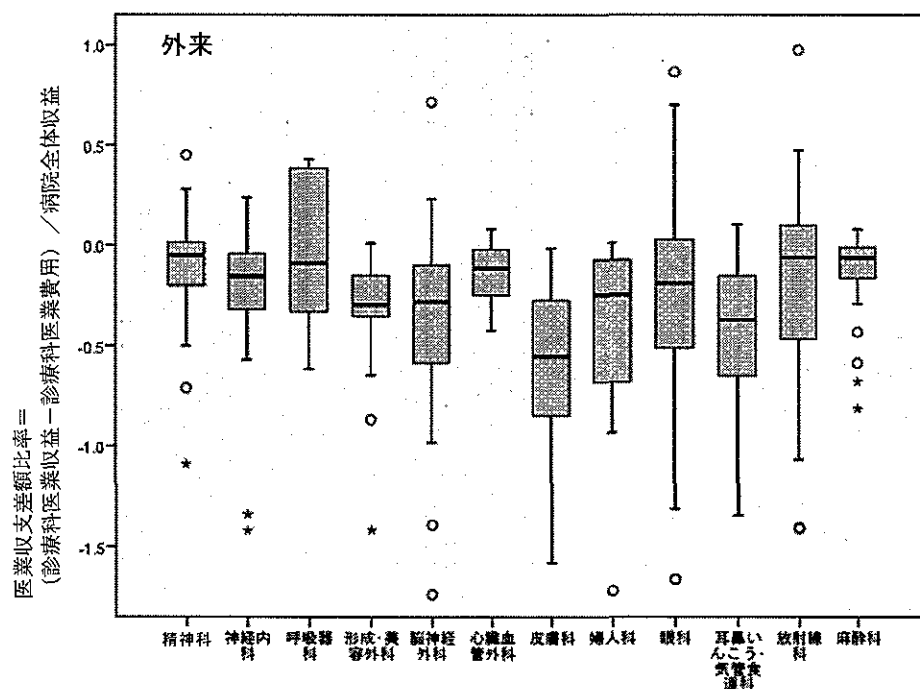
- ・ 図表 3-13 は外来部門における収支差額比率の分布を示しており、上表でばらつきの大きい診療科、下表でばらつきの小さい診療科をまとめて表示した。
- ・ なお、図表 3-12、図表 3-13 に示された診療科別の収支計算結果については、本調査検討委員会の議論の中で「現場の感覚とは異なる部分もある」と言った意見もきかれた。

図表 3-13 診療科別 入院・外来別収支差額比率分布 (三次配賦後・外来)



診療科名	n
内科	64
消化器科	26
循環器科	35
小児科	44
外科	60
整形外科	65
ひ尿器科	52
産婦人科	32
リハビリテーション科	23

※箱ひげ図の表示範囲を限定している



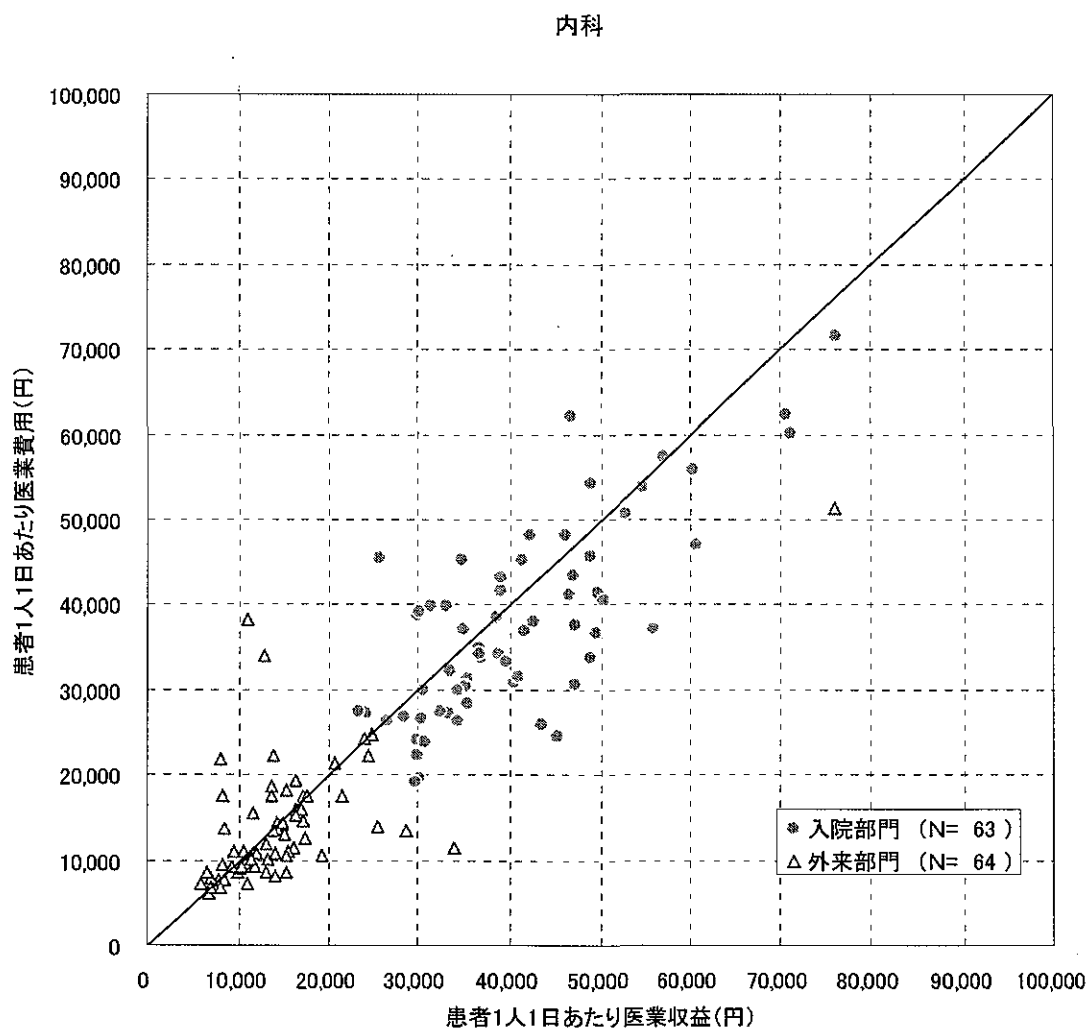
診療科名	n
精神科	23
神経内科	26
呼吸器科	16
形成・美容外科	25
脳神経外科	51
心臓血管外科	22
皮膚科	49
婦人科	10
眼科	49
耳鼻いんこう・気管食道科	45
放射線科	37
麻酔科	29

(3) 診療科部門別収支分布

■診療科部門別収支分布 (内科)

- ・内科 (入院部門・外来部門) における、各病院の患者一人一日あたりの医業収益、医業費用の分布は以下のとおり。
- ・入院部門、外来部門とも、45 度線 (収益・費用の一致点) の下方にある病院 (医業収益が医業費用を上回る病院) の方が若干多い。

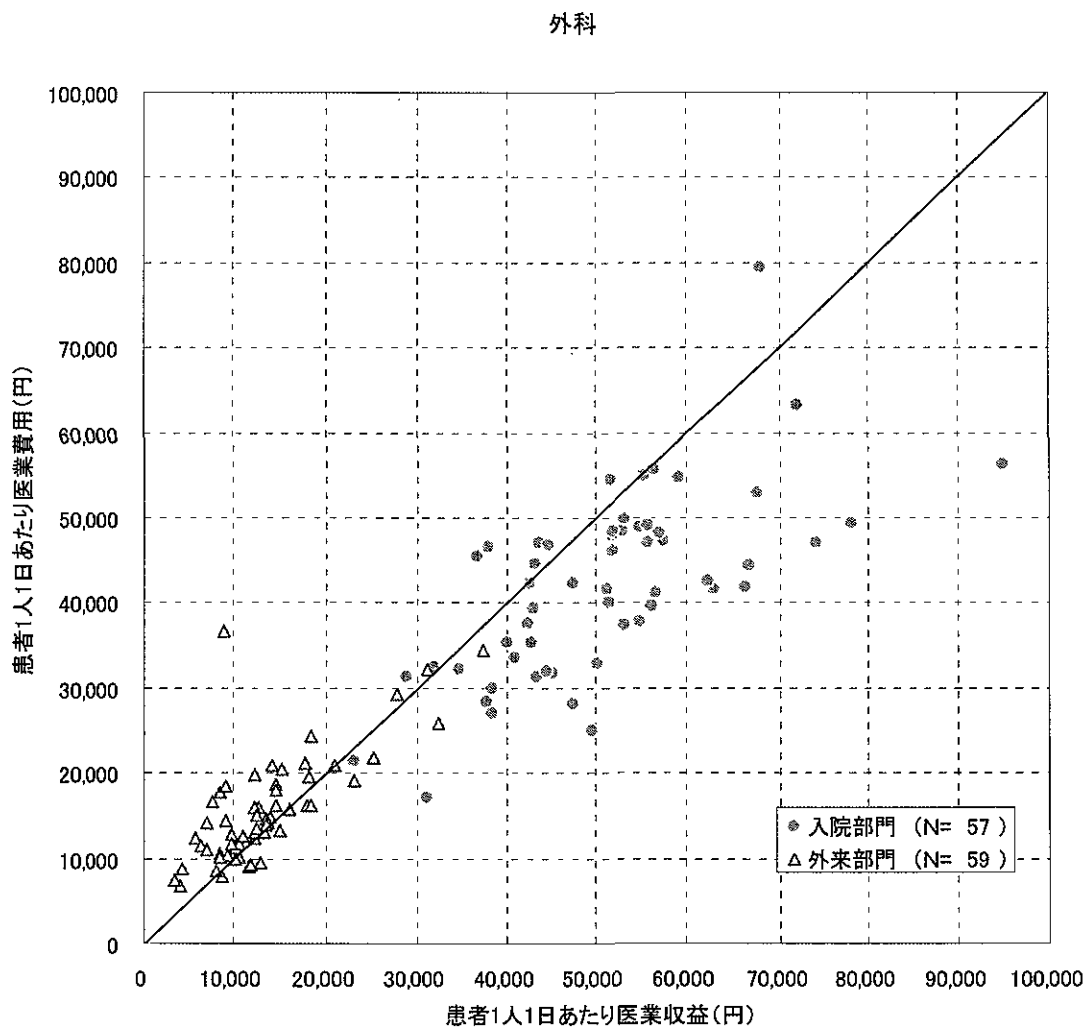
図表 3-14 内科における患者1人1日あたり医業収益/医業費用 分布
(三次配賦後)



■診療科部門別収支分布（外科）

- ・外科（入院部門・外来部門）における、各病院の患者一人一日あたりの医業収益、医業費用の分布は以下のとおり。
- ・入院部門は医業収益が医業費用を上回る病院の数が多いが、外来部門は医業費用が医業収益を上回る病院の数が多。

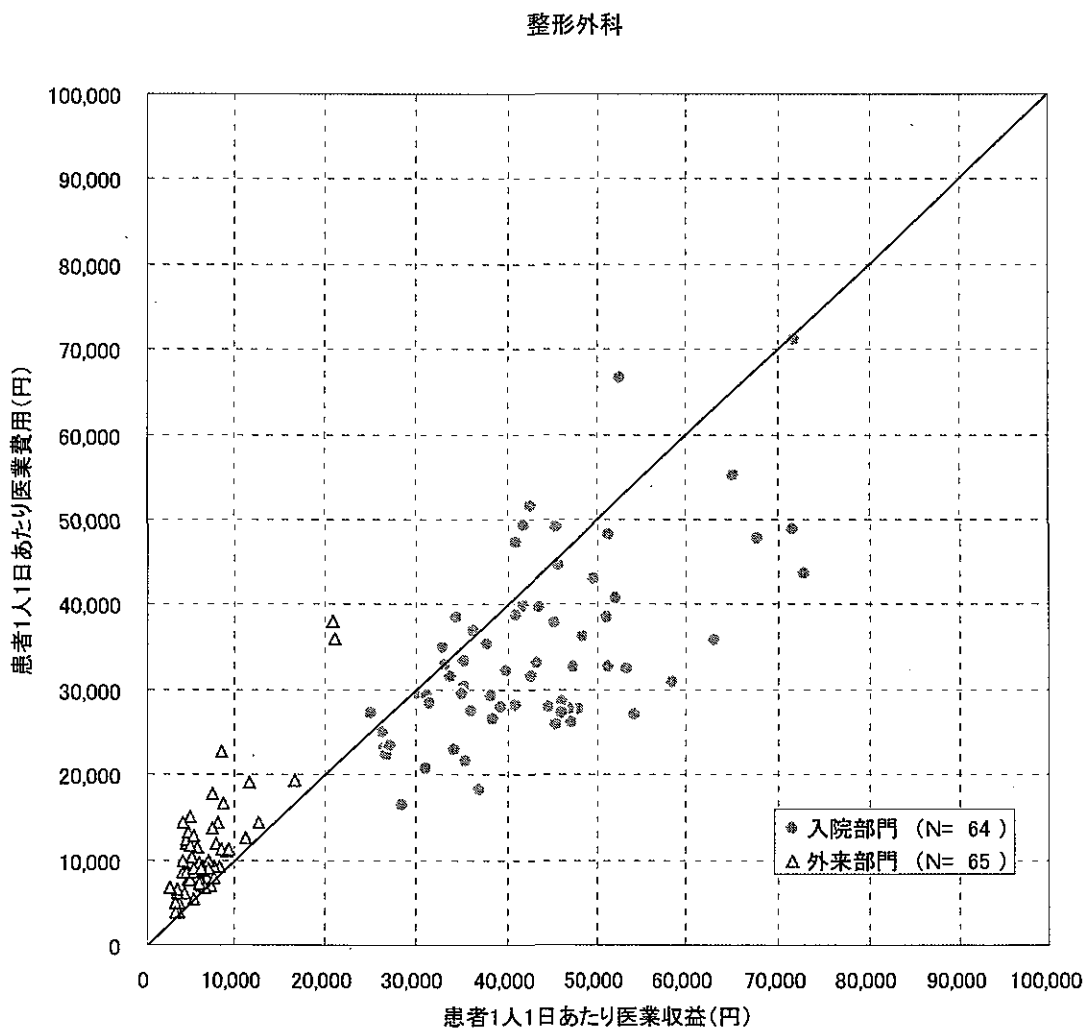
図表 3-15 外科における患者1人1日あたり医業収益／医業費用 分布
（三次配賦後）



■診療科部門別収支分布（整形外科）

- ・整形外科（入院部門・外来部門）における、各病院の患者一人一日あたりの医業収益、医業費用の分布は以下のとおり。
- ・外科と同様、入院部門は医業収益が医業費用を上回る病院の数が多いが、外来部門では医業収益が上回る病院はほとんどなかった。

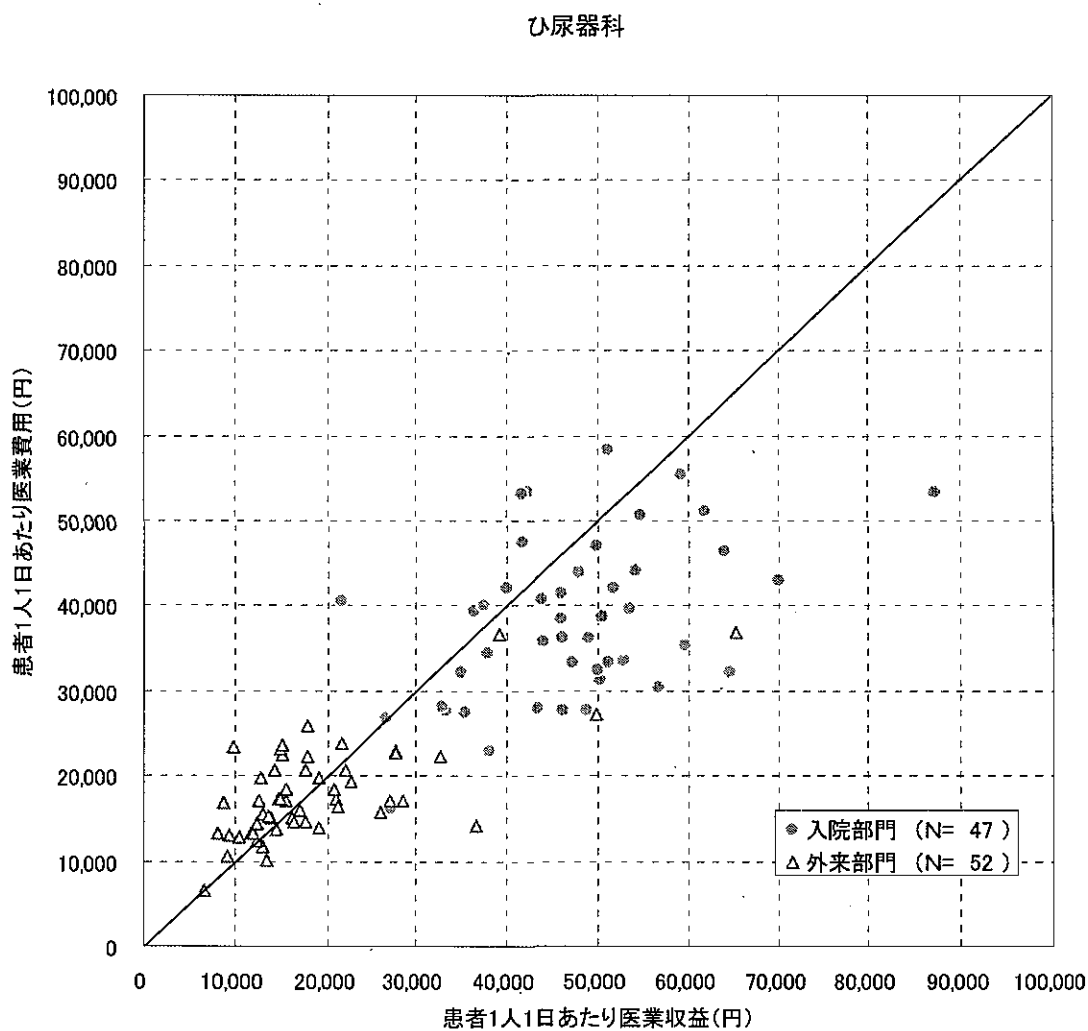
図表 3-16 整形外科における患者1人1日あたり医業収益／医業費用 分布
（三次配賦後）



■診療科部門別収支分布（ひ尿器科）

- ・ひ尿器科（入院部門・外来部門）における、各病院の患者一人一日あたりの医業収益、医業費用の分布は以下のとおり。
- ・外来部門については、医業費用に対して医業収益が上回る病院、下回る病院の数に大きな差は無いが、入院部門については医業収益が医業費用を上回る病院が多い。

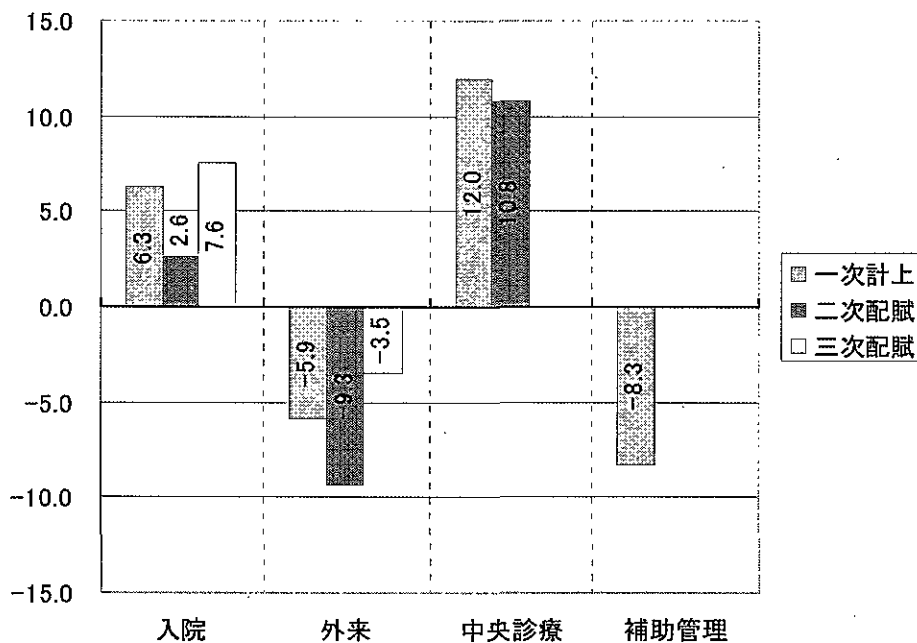
図表 3-17 ひ尿器科における患者1人1日あたり医業収益／医業費用 分布
（三次配賦後）



(4) 階梯式配賦の状況

- ・一次計上から三次配賦の過程を通じて、入院・外来・中央診療・補助管理の各部門の収支差額比率がどのように変化したかを以下に示す（全病院における平均値）。
- ・この「診療科部門別収支計算」の配賦の仕組みの中では、一次計上、二次配賦の各段階を通して中央診療部門の収支差額比率が高く、三次配賦によってそれが入院、外来部門に配賦される構造となっている。

図表 3-18 一次計上、二次配賦、三次配賦の部門別収支差額比率



3.4. 等価係数

「2.2.4. (4) 等価係数」に記載のとおり、本年度調査においては等価係数を算出するための「特殊原価調査」は行わず、昨年度までに算出した等価係数を用いることとした。また、昨年度までの等価係数が存在しないサービスについては、レセプト・データの平均点数を媒介に推計を行う方法を暫定的に実施した。この推計による対応の範囲は以下のとおりである。

図表 3-19 本年度発生したサービスのうち、等価係数推計の割合

	等価係数	サービス種類数	実施件数		総点数 (実施件数×点数)	
				(構成比)		(構成比)
手術	存在する	394	50,156	87%	343,507,850	79%
	存在しない	824	7,316	13%	93,669,653	21%
検査	存在する	143	3,552,093	99%	473,075,722	99%
	存在しない	69	24,833	1%	4,359,039	1%
画像診断	存在する	12	543,031	99%	258,631,358	97%
	存在しない	5	878	1%	7,009,905	3%
合計 (手術+検査+画像診断)	存在する	549	4,145,280	99%	1,075,214,930	91%
	存在しない	898	33,027	1%	105,038,597	9%

手術、検査、および画像診断の合計で、等価係数が存在しないサービス（すなわち、推計値を用いたサービス）の割合は、実施件数ベースで1%、点数ベースで9%となった。

3.5. 事後調査

3.5.1. 調査概要

各病院での本調査研究に対する対応可能性の検証、診療科部門別収支計算結果の妥当性の検証を目的として、調査終了後に調査参加病院 100 病院に対して事後調査を実施した。診療科部門別収支計算結果（三次配賦後の入院、外来別、診療科別の収支計算結果）を送付すると同時に、以下の質問からなる事後調査票を配布し、100 病院中 64 病院から回答を得た。概要は以下のとおりである。

(1) 質問

- ・質問1：本調査の調査票（4種類）の作成状況および提出状況
- ・質問2：今回の診療科部門別収支計算結果を見てどう思うか
- ・質問3：病院における診療科部門別収支の把握状況・把握方法
- ・質問4：調査全般についての感想

(2) 回答状況

図表 3-20 事後調査回答状況

事後調査票 発送施設	100	事後調査票 回収施設	64	うち分析対象施設	40
				うち分析対象外施設	24
		(事後調査票 未回収施設)	(38)	(うち分析対象施設)	(27)
				(うち分析対象外施設)	(9)

※調査期間：平成19年4月25日～平成19年5月14日
(5月25日までに着信した回答を集計対象とした)

3.5.2. 調査に対する対応可能性の検証

本調査研究の調査票1～4に関して、作成・提出状況および難しかった点について聞いたところ、以下のとおりの回答となった。

(1) 調査1. 収支計算ファイル

図表 3-21 「調査1. 収支計算ファイル」

		N= 64	
		N	%
問1.作成・提出状況			
・ 作業は特に問題はなく期日までに提出できた		4	6%
・ 期日までに提出できたが作業が難しい箇所があった		51	80%
・ 期日通りに提出できなかった		9	14%
問2. 作業が難しかった点・問題があると感じた点			
・ 看護師や職員が診療科を兼任している場合の給与費や人員数の算出が難しかった		36	56%
・ 部門を中央診療と補助管理に振り分けるのが難しかった		26	41%
・ 保険等査定減の各部門(診療科)への細分化が難しかった		25	39%
・ 複数の部門(診療科)で共有している場合の面積の算出が難しかった		20	31%
・ 当院の会計科目を調査票の科目にあわせるのが難しかった		19	30%
・ 要綱が分かりづらかった		15	23%
・ 全体収支データを1か月分として計上するのが難しかった		14	22%
・ センター方式を採用している部門の診療科別の医師勤務日数の算出方法が難しかった		12	19%
・ 標榜診療科と診療報酬請求時の診療科コードの対応が難しかった		9	14%
・ 包括払い分の収益の記載方法が分かりづらかった		7	11%
・ 入院部門における患者数の数え方が難しかった		3	5%
・ その他		7	11%

調査1に関し、大半の病院が作業に難しい箇所があったと回答している。難しかった点・問題があると感じた点として、「診療科兼任の場合の給与・人員の算出」「中央診療部門、補助管理部門の振り分け」「保険等査定減の診療科への振り分け」等が多くあがっていた。

(2) 調査2. レセプト・データもしくはEファイル

図表 3-22 「調査2. レセプト・データもしくはEファイル」

	N= 64	
	N	%
問1.作成・提出状況		
・作業は特に問題はなく期日までに提出できた	53	83%
・期日までに提出できたが作業が難しい箇所があった	11	17%
・期日通りに提出できなかった	0	0%
問2. 作業が難しかった点・問題があると感じた点		
・匿名化ソフトがうまく機能しなかった	7	11%
・CSVファイル形式(カンマ区切り)で出力するところが難しかった	4	6%
・要綱が分かりづらかった	2	3%
・外来のEファイルの作り方がよくわからなかった	1	2%
・その他	3	5%

調査2に関し、83%の病院が「作業に特に問題なく期日までに提出できた」と回答している。難しかった点・問題があると感じた点としては、「匿名化ソフトがうまく機能しなかった」という点が挙げられた。

(3) 調査3. 医師勤務に関する調査

図表 3-23 「調査3. 医師勤務に関する調査」

	N= 64	
	N	%
問1.作成・提出状況		
・作業は特に問題はなく期日までに提出できた	13	20%
・期日までに提出できたが作業が難しい箇所があった	45	70%
・期日通りに提出できなかった	6	9%
問2. 作業が難しかった点・問題があると感じた点		
・診療時間以外の時間の記載方法が難しかった	31	48%
・救急外来など、複数の診療科を担当している場合の記載方法が難しかった	29	45%
・要綱に記載されていた時間数の算出方法が分かりづらかった	16	25%
・診療科に属していない医師に関する記載方法が分かりづらかった	15	23%
・補足調査票の記入方法が分かりづらかった	10	16%
・その他	5	8%

調査3に関し、作業に難しい箇所があったとした病院、期日通りに提出できなかった病院が80%近くを占めた。難しかった点・問題があると感じた点として、「診療時間外の記載方法」「複数診療科担当の場合の記載方法」を挙げた病院がそれぞれ約半数あった。

(4) 調査4. 手術、検査、画像診断の診療行為実施場所に関する調査

図表 3-24 「調査4. 手術、検査、画像診断の診療行為実施場所に関する調査」

	N= 64	
	N	%
問1.作成・提出状況		
・作業は特に問題はなく期日までに提出できた	22	34%
・期日までに提出できたが作業が難しい箇所があった	38	59%
・期日通りに提出できなかった	4	6%
問2. 作業が難しかった点・問題があると感じた点		
・診療行為ごとに実施場所を特定するのは難しかった	40	63%
・要綱が分かりづらかった	5	8%
・その他	4	6%

調査票4に関し、「作業に難しい箇所があった」「期日通り提出できなかった」という病院が65%となった。難しかった点・問題があると感じた点としては、「診療行為ごとの実施場所を特定するのが難しかった」という意見が多かった。

3.5.3. 診療科部門別収支計算結果の検証

各病院に診療科部門別収支計算結果を送付し、その結果が各病院の認識と一致しているかを質問した。なお、各病院の認識とは、病院でシステム等により把握されている診療科部門別収支のほか、その他の手段により把握されている診療科部門別収支、病院全体を管理する立場での経験・実感といったものまで含むこととした。

なお、回答病院の中には最終計算がほぼ問題なく終了した「分析対象病院」と、データの信頼性に疑義があり分析対象から外した「分析対象外病院」が存在する。「診療科部門別収支計算結果」に関する回答は計算結果の信頼性が前提となるため、以下3間については当該病院が「分析対象病院」である場合(40病院)の結果を記載した(「分析対象外病院」を含む回答病院全体(64病院)の結果は右列に表示した)。

まず、「入院部門の収支差額」と「外来部門の収支差額」の入院・外来の比率が病院の認識と一致するかを聞いたところ、以下の回答が得られた。

図表 3-25 入院・外来の収支差額の比率

	分析対象病院 N= 40		(全体) (N= 64)	
	N	%	N	%
・一致している	1	3%	(2)	(3%)
・ほぼ一致している	29	73%	(40)	(63%)
・一致していない	3	8%	(7)	(11%)
・不明、わからない	7	18%	(12)	(19%)
・記載なし		0%	(3)	(5%)

分析対象病院(40病院)のうち、計算結果が病院の認識と「一致している」「ほぼ一致している」との回答が、30病院(76%)あった。この30病院のうちの18病院は病院独自の管理会計システム等により診療科部門別収支を把握している病院であり、相応の根拠

を持っての判断と推察される。また、「一致していない」と回答した病院の理由としては、「入院部門の医業費用の比率が高い」「病院の収支計算と診療科が不一致」等があった。

次に「入院部門」の中の各診療科の収支差額の割合が、病院の認識と一致するかを質問した。

図表 3-26 入院部門の収支差額

	分析対象病院 N= 40		(全体) (N= 64)	
	N	%	N	%
・ 一致している	1	3%	(3)	(5%)
・ ほぼ一致している	21	53%	(29)	(45%)
・ 一致していない	9	23%	(12)	(19%)
・ 不明、わからない	8	20%	(16)	(25%)
・ 記載なし	1	3%	(4)	(6%)

分析対象病院（40 病院）のうち、病院の認識と「一致している」「ほぼ一致している」との回答が、22 病院（56%）となった。「一致していない診療科名、一致していないと判断した理由」としては、「整形外科の収支が異なる」との指摘が複数あった。

同様に「外来部門」の中の各診療科の収支差額の割合が、病院の認識と一致するかを質問した。

図表 3-27 外来部門の収支差額

	分析対象病院 N= 40		(全体) (N= 64)	
	N	%	N	%
・ 一致している	1	3%	(2)	(3%)
・ ほぼ一致している	24	60%	(32)	(50%)
・ 一致していない	7	18%	(11)	(17%)
・ 不明、わからない	6	15%	(14)	(22%)
・ 記載なし	2	5%	(5)	(8%)

分析対象病院（40 病院）のうち、病院の認識と「一致している」「ほぼ一致している」との回答が、25 病院（63%）となった。「一致していない」とした病院の「一致していない診療科名、一致していないと判断した理由」としては、「内科、整形外科、消化器科、婦人科等の収支等が異なる」といった意見があった。

3.5.4. 診療科部門別収支の把握状況・把握方法

上記収支計算結果の判断根拠の確認、また調査対象病院における診療科部門別収支算定状況の把握のため、調査対象全病院における診療科部門別収支把握状況、方法について確認した。

図表 3-28 病院における診療科部門別収支の把握状況

	N= 64	
	N	%
・ 部門別収支を把握している	10	16%
・ (一部未対応だが) 部門別収支を把握している	27	42%
・ 把握していない	19	30%
・ どちらとも言えない	8	13%

回答病院 (64 病院) において診療科部門別収支を「把握している」「部分的には把握している」病院は、37 病院 (58%) となった。「どちらとも言えない」とする 8 病院の理由としては、「共有部門の配賦等が確実なものとは言えない」等、実施はしているが正確ではない、と認識している病院がほとんどであり、結果的に 70% 程度の病院が診療科部門別収支の把握を試みているという結果となった。

また、「把握している」「部分的に把握している」37 病院についてその手段を照会したところ、「病院の管理会計システム」が 19 病院、「その他の手段」(エクセルで独自の集計、既存の会計システム、コンサル会社提供システム、等) が 18 病院であった。

さらに「3.5.4 診療科部門別収支の把握状況・把握方法」と「3.5.3 診療科部門別収支計算の結果検証」をクロス集計した結果を以下に示す³。

図表 3-29 調査結果との一致状況と病院における診療科部門別収支把握状況

	入院・外来の比率		入院 診療科別		外来 診療科別	
	一致	不一致	一致	不一致	一致	不一致
診療科部門別収支を把握している (n=10)	8	2	6	4	7	3
(一部未対応だが) 診療科部門別 収支を把握している (n=27)	16	11	13	14	15	12
把握していない (n=19)	13	6	12	7	11	8
どちらとも言えない (n=8)	5	3	1	7	1	7

(注) “一致している” もしくは “ほぼ一致している” と回答した場合を「一致」、それ以外の場合を「不一致」とした。

各病院における把握の程度と、調査結果の一致状況には明確な関係が得られなかった。なお、上記の他、調査全般についての意見等も調査した。これらについては、上記質問に対する回答の詳細とともに、資料編 (資料 8) に添付する。

³ 詳細は、資料8-3～8-5 のとおり。

第4章 考察

4.1. 汎用性の検証

本年度調査は、昨年度までに開発された手法の検証のために対象病院数を増やして実施したものである。今後、本調査をより多くの病院に対して実施するためには、今回の調査の実施状況、病院の対応状況から得られた教訓を生かして改善点を明確にすることが重要である。このような観点から、今回は、本調査への対応状況や調査結果について病院宛に照会すると同時に、調査班としても調査票の記載内容の不備の原因や対応策について検討した。以下、病院宛の事後調査の結果と調査班の検討をあわせて、本調査の対応可能性、実施可能性の改善策について記す。

4.1.1. 調査票の記載内容

調査票や実施要綱において記入方法についての説明が不足していたこともあり、どの病院もいずれかの不備が見られた。調査票の記載内容についての主な不備は、下図表の通りである。

データ上の疑義事項に対し病院宛に照会したものを「先方に照会」とし、①結果的に問題が無かったケースを「問題なし」、②回答をもらいそれに基づきデータ修正を施したケースを「回答あり」、③回答を得られなかった、もしくは回答を得たが改善されていないケースを「修正不可」に分類した。また、照会するまでもなく調査班（事務局）側で訂正できてしまうレベルの内容については「事務局側で修正」に分類した。

図表 4-1 データ不備の内容

		先方に照会			事務局側 で修正	合計
		問題なし	回答あり	修正不可		
1	病院全体の収支データについて	31	56	1	0	88
2	給与費と職員数の整合性について	7	64	9	0	80
3	面積など基礎情報について	6	56	8	0	70
4	部門別収益データについて	30	34	4	1	69
5	患者数について	38	14	2	0	54
6	補助管理部門の設定(一部中央含む)に関して	0	44	1	5	50
7	各調査シートでの部門不整合	0	37	7	0	44
8	医師勤務時間調査の追加シートについて	0	11	1	0	12
9	職員数に看護師数は含んでいるか	2	17	1	0	20
10	病床数の記載がない	1	16	0	1	18
11	歯科の扱いについて	0	11	1	2	14
12	センター方式で記載なし	2	5	0	0	7
合計		117	408	35	9	526

以下、上記各事項について、不備の状況・理由・対応、そして今後の改善案を記載する。